トピックス

広瀬川における地域再生エリアマネジメント負担金制度 (略称：広瀬川 BID)導入可能性調査研究†

堤洋樹*，松本浩樹**，岡野素之***，杉浦榮****，石黒由紀*

1　はじめに

旧市街地を流れる前橋市の広瀬川は，前橋市民の心のよりどころである．近年大規模マンションが建設されるなど，地域資源としても良質であるが，人通りはあまりなくやや残念な状況にある．この状況を根本的に変えるためには，事業者・地元住民・自治体が一体となって本質的なエリアマネジメントを行う必要があるだろう．

そこで本研究では，内閣府が平成 30 年度に施行した地域再生エリアマネジメント負担金制度(日本版 BID：Business Improvement District) を活用し，広瀬川に面する地域(約 800m)で BID を立上げ，地域全体を管理・活用するために求められるスキーム(広瀬川 BID)を構築するとともに，その導入可能性について検証を行う．

なお日本版 BID は, 事業者に対してエリアマネジメントの活動資金を自治体が徴収する仕組みであるが，現時点では導入実績がない．また制度実施までに，事業者の 2/3 以上の合意，議会の承認など準備段階の作業・調整が必要となる．さらに地元住民・自治体に事業者同様の制度を適用することはできない．そこで学科を超えた研究グループを組み広瀬川 BID の導入可能性を検証する．

2　研究計画と方法

対象地域の事業者に対して，①地域整備計画の作成②地域来訪者等利便促進活動計画(5 年以内)の策定③エリアマネジメント団体の設立④受益者(事業者)の合意形成⑤負担金の設定⑥負担金条例のたたき台作成など，日本版 BID の実現に不可欠な以下の作業・調整を行う．

2・1　ヴィジョン・目標の設定

広瀬川 BID では，次の 2 つの目標を設定する．

[質の高い「広瀬川」空間の創出] 長野県小布施町のように地域全体(事業者・住民・自治体)で質の高い空間を創出→広瀬川を中心とした修景事業，隣接住宅によるオープンガーデンなどを実現し，イベントや祭りだけではない「日常」整備(住宅も対象)を実施する．

[「水と緑と詩のまち前橋」の実現] 前橋市民の心のよりどころとして，求心力を持つ魅力ある広瀬川の再生→水：広瀬川(水上・水中)の活用，緑：住民による花壇・植林の実施, 詩: 文学館ら公共施設との連携を実現する．

2・2　目標実現に向けた方針の設定

広瀬川 BID のエリア全体(中央前橋駅⇔広瀬川美術館の河畔)で，以下の事業の実現可能性を検討する．

[環境改善] 広場化・イベント開催による集客

[利便性の向上] 広場化に伴う移動の複数手段

[利用者の安心] 利用機会の増加

[利用/整備の障壁排除] 一括管理･手続き一元化による利用促進

[整備/活動費の充実] 清掃･管理など公共サービスの向上と整備推進

2・3　エリアにあるリソースの整理

広瀬川は農業用水のため，国ではなく前橋市の管轄である．そのため前橋市との協働により，河川①だけでなく橋梁②緑地③(歩道④含)道路⑤そして隣接する公共施設⑥(公営駐車場⑦や公園等含む)，の一体的利用・運営が可能である．なお広瀬川河畔には住宅も多い．広瀬川 BID では，住民がフリーライダーにならないように対象地域に 2 つの条例をかけ，事業者だけでなく住民や自治体(公共施設)も対象に本質的な BID を目指す．

† 原稿受理 令和３年２月２６日 Received February 26, 2021
* 建築学科 (Department of Architecture)
** システム生体工学科 (Department of Systems Life Engineering)
*** 社会環境工学科 (Department of Civil and Environmental Engineering)
****総合デザイン工学科 (Department of Integrated Design Engineering)

2・4　今後実施予定のプロジェクト検討

これまで検討した実施プロジェクト案を以下に示す.

[水(広瀬川)] 広瀬川の水質改善, 清掃 WS の実施と試行, イベントの管理/調整, 橋梁の活用(販売), WiFi/5G+サイト構築, タチヨルつくえ等整備

[緑(歩道・敷地)] オープンガーデン試行, 北側:自転車＋自動運転, 南側:広場化の実施/管理, 夜間照明改善/清掃支援, 防災訓練・防災 WS, 出店/イベント開催/管理など

[詩(施設)] 文学館/朔太郎邸と連携, 上毛電鉄/老人ホームと連携, 広瀬川美術館の活用, 臨江閣/ルナパークに接続※「マエチャリ」との連動や城東 P(官)の管理など

2・5　BID の実施スキーム

BID の実現に不可欠な事業費案を以下に示す.

[運営主体] 前橋市まちづくり公社が主体として, BID 運営は RDM ラボが担当し, 年間 2,000 万円程度の予算規模で活動

[外部資金] 城東パーキングの指定管理料＋利益※主な収益源

[事業者]間口に比例※年間 5,000 円程度

[住民/所有者]事業者の 1/3 を予定※オープンガーデン実施で免除

[自治体(＝公共施設)]事業者同様＋自治体支援 : 空き家特例を外し差額交付, 既存の作業・費用等の移管, ふるさと納税対象

[その他] 寄付・クラウドファンディング等

3　研究成果

3・1　住民アンケート・ワークショップの実施

8 月末から 9 月初めに, 広瀬川における散歩やランニングなどへの要望について広瀬川や商店街周辺の方々にアンケートを行った. 約 500 部配布し, 回答数は 48 件であった. その結果, 広瀬川周辺の人でも広瀬川にはまったく訪れない人が多く, 散歩やランニングもしていない人が多いことが判明した. また緑や自然が多い/一人で運動したい/休憩場所が欲しいなど, 賑わいよりも環境整備が求められることが判明した.

また 12 月には広瀬川活用まちづくりワークショップを行った. 4 名の住民の方が参加し, 堤研究室の学生 4 人と 2 グループに分かれて作業を行った. 住民グループからは「商店街には個性的なお店にふらっと入れる雰囲気にしたい」「自然やアートを生かして若者を呼び込みたい」といった意見が得られた.

3・2　シンポジウムの開催・支援

12 月に前橋市が主催する第 2 回 前橋市アーバンデザインシンポジウム「まち使いアクションから起こすエリアリノベーション」の開催支援を行った.

また 2 月には長谷川隆三氏(株式会社フロントヤード)を講師にお呼びしてシンポジウム「新しいまちづくり手法としての BID とその可能性」を開催した. また今村一之先生(前橋工科大学副学長), 岸篤美氏(弁天通り商店街理事長), 田中氏・中澤氏(前橋市市街地整備課)らによるパネルディスカッションを行い, まちづくりは自治体も住民も民間企業も大学も人材とお金も出しあって総力戦で進めていく必要があることを共有できた.

3・3　スーパーシティ連携事業者登録/承認

広瀬川 BID の検討を進める中で, 前橋市のスーパーシティ構想の趣旨とリンクしている部分が多いことが判明したため, 今村先生・鍾先生らと研究連携の可能性を検討するとともに, 大学グループとして連携事業者登録を行った. その結果, 連携事業者として承認された.

3・4　関係団体などへのヒアリング・勉強会の実施

BID は都市再生推進法人でないと実施できないため, 前橋市内の 2 つの団体にヒアリングを行った. その結果, 広瀬川 BID の収益の柱でもある城東パーキングの指定管理者でもある前橋市まちづくり公社と連携し, 事業の一つとして実施する体制が適切であることが判明した. なお前橋市まちづくり公社とは, 広瀬川 BID だけでなく他のまちづくり活動でも協働できることを確認した.

また BID に関する勉強会を基本的に月 1 回実施してきた. さらに岡正己前橋市議らにも勉強会に参加していただき, 広瀬川 BID の可能性と今後の進め方について議論を重ねてきた.

4　まとめ

本調査研究では, 広瀬川 BID の実現に向けた「準備段階に必要な作業～事業の実施スキーム」までの確立を目的に, 対象地域の事業者・住民・自治体(公共施設)へのヒアリングや WS の実施, 前橋市担当課との協議, 議会(議員)への協力依頼, 勉強会の実施(月 1 回)を行ってきた.

新型コロナの影響により, 対面での活動が制限されるなかでの調査研究ではあったが, 当初予定した最低限の調査活動は実施することができた. しかし広瀬川 BID の実現にはまだ準備が不足している. 今後も積極的に調査研究を行い, 公共施設（ハコモノ＋インフラ）の運用改善による持続可能なまちづくりを目指したい.